

数

つている。
 メキシコは地震多発国で、年間三千回も発生するというが、有感地震は少ない。今回の地震は、九七三年の大地震以来のスケールだが、この時はメキシコ市の東南三二〇キロの地点を震源地としてM6・5の規模で発生し、メキシコ市

内での被害はほとんどなかったが、五百七十三人の死者が出た。気象庁地震課の話「このメキシコ地震はマグニチュード7・5という報告も伝わっています。マグニチュードの数字が1違つと力は三十分の一になり、大違いです。かりに7・9が正確なら関東大震災と同じです。世界では8クラスの地震は年に一回、7クラスの地震は年に十回程度です。8以上の地震は日本では一九三三年の三陸沖地震、一九五二年の十勝沖地震の例があります。津波など日本への影響はありません」

彭德懷元国防相の名誉回復

非毛沢東化の現れか

委 峻
 央 示
 中 示
 党 中 示
 中 示
 党 中 示

北京で開催中の党中央総会で、彭德懷元国防相の名誉回復がほぼ確実となったが、同氏は六六年の文化大革命の口火をきった姚文元論文『海瑞罷官を評す』で批判された主人公。その復活を中国専門家は注目している。

彭德懷氏が失脚したのは五九年

九月、毛沢東の大躍進人民公社化政策と軍の近代化をめぐって対立、国防部長の地位を追われ、生死不明、生きていれば八十九歳。彭氏の名誉回復を示唆したところについて、中嶋嶺雄東京外大教授はこう指摘する。

「劉少奇の名誉回復以上に重要

だ。というのも、劉の復活はたんなる文革否定ですが彭德懷氏は毛沢東の大躍進政策、軍事路線に反対した人で、中国のブルジョアともいわれ、天下分け目の大論争で敗れ去った。毛沢東型社会主義の全面否定をシンボリックにあらわすことができそうです」

また、中国専門家の桑原寿三氏も「彭氏は、民衆が塗炭の苦しみをなめた毛の人民公社化運動で、為民請命」といわれた。つまり、民のために命をいせした人として敬愛されてきた。日本なら、源義経ですね」。

新編歴史劇「海瑞罷官」は六一年、劇作家の吳晗（当時北京市副市長）が発表した。明代の清廉潔白な官吏といわれた海瑞が、酒色におぼれて、政治を顧みなかった穢（ばつ）宗皇帝に直言して受け入れられず、免官になった話を題材にしている。ところが、四人組の一人、姚文元は六五年に「海瑞罷官」を追放された右翼日和見主義者（彭氏）の復讐を求めようとすると批判した。